

【生薬名】石膏 *GYPSUM FIBROSUM*



【別名】理石・寒水石・白虎・玉火石・冰石・方解石・長石

【薬用部分】含水硫酸カルシウム

【主成分】硫酸カルシウム、粘土、砂、有機物、 Fe^{++} 、 Mg^{++} 、

【薬性】気味は甘辛大寒、帰経は肺胃に属す

【効能】●清熱瀉火・解渴・除煩

●主として裏熱に使用し、温熱病に対する主薬である

●肺胃の実熱の症候に適用する

●止渴

●熱を清し、火を寫す。煩を除き、渴きを止める。

●ゆえに外感熱病・高熱・煩渴・肺熱・喘咳、

●胃熱亢進による、頭痛・歯痛に用いる。

●用法用量は1日15~60g。他薬に先立って煎じる

●

【出典】●石膏。味辛微寒。生山谷。治中風寒熱。心下逆氣驚喘。口乾舌焦不能息。腹中堅痛。除邪鬼。産乳金創。（神農本草經中品）

●石膏には、硬石膏と軟石膏があり、軟石膏は、紅白に分かれる。そのうち紅石膏は服用できない。（本草綱目）

●

【備考】●体質虚弱、虚寒証の者、実熱なき者には、禁用。

●

●

【処方例】●白虎湯、竹葉石膏湯、大青龍湯、麻杏甘石湯など